生野高校写真部×広報まつばら

# あなたの相棒

人間誰しも、大切な人・物・場所があるはず…。府立生野高校写真部の皆さんと一緒に、そんな誰かのかけがえのない「相棒」を紹介します。第14回目は、河内松原駅前の上田で46年間「Kissa JEJE」を営む佐野將身さんです。

※今回掲載しきれなかった写真部が撮影した写真は市ホームページで見ることが出来ます。

## 人が集う老舗の喫茶店

赤い屋根に白い文字で「JEJE」。中に入ると、黄、青、茶色を基調とした落ち着きのある空間が広がる。厨房近くの棚には、グラスと一緒にフィルム一眼レフカメラが置かれていた。將身さんは、この店を1970年6月（大阪万博の年）に開き、今年で46年になる。

「若い頃から、喫茶店かスナックのマスターに憧れていてね。子どものころ、將来の夢の一番はパイロット、二番目がコックさんだったから、ほぼ夢は叶った。」と穏やかな顔で語り始めた。こちらからあまり質問しなくても、どんどん話がつながってゆく。

「喫茶店は、色んな世界で過ごす人の本音がたくさん集まる場所。そうやって、こちらも様々な方と知り合いになれるのが一番嬉しいし、楽しい。」

オススメ料理を食べさせてもらう。しっとりしたケチャップライスに、炒めた鶏肉、野菜がたくさん入ったオムライス。ふんわり焼いた卵が上に載せられ、特製ソースがかかっていた。どこか懐かしくて優しい味。定番メニューの焼きそばは、オープンからずっと同じ味付けだという。昔からのお客さんがたまにきて、「ああ、あのときと同じ味がする」といって喜ぶ。思い出と味が手をつなぐ。変わらないことの安心感は老舗ならではの魅力。

そして喫茶店といえばコーヒー。將身さん曰く「クセのない飲みやすいコーヒーを目指して豆を厳選しています。コーヒーは、まずブラックで一口飲んで欲しい。シロップやミルクを入れるのはそれからで。」

お腹が満たされて、思わず忘れそうになっていた「相棒」を慌てて聞く。「普段意識したことはないけど、やっぱりママ（奥さん）かな。アドバイザーみたいなもんです。叱られることも多いけど、「ハイハイ」と素直に聴くのが円満のコツ。（笑）」

高校生にとっては、ファーストフード店なんかと違って、結構敷居が高いと思っていた「喫茶店」。「JEJE」は、人が「すれ違う場所」ではなく「集う場所」だ。

文　阪倉由真（一年）